

第 2 課

教会の歴史

第1課では、教会を永遠の観点から学びました。神ご自身が教会を計画され、最も適切な時期にその計画を啓示されました。現在、教会がかかえているさまざまな問題の中にも神は働いておられ、いつの日か必ず教会のための計画を成就なさいます。イエスが再び地上に来られ、天国で共に暮らすために教会を引き上げなさいます。

この課では、教会を地上の観点から学びます。イエスが、「わたしの教会を建てます」と言われたのは、この地上において建てることを意味していたのです。この課において、五旬節から現在までの教会に何が起きたのか簡単に学んでみたいと思います。

教会の歴史の中から多くの事柄を学び、教会がどのように成長したかを知ることは、胸おどらされることです。しかし、後で学ぶのですが、その成長の過程においては問題も多く、これらは現代の私たちに大きな教訓を与えてくれます。私にとって教会の歴史は非常に興味深いものですが、きっとあなたも同じであると思います。



この課であなたが学ぶことは……

教会の誕生

教会の公認

教会の被害

教会の改革

教会のリバイバル

この課を学び終えた結果は……

■ 教会の歴史をたどる。

- 教会内のいくつかの問題の原因を理解することができる。
- 教会の組織について定義することができる。

教会の誕生

学びの目的1 五旬節の日と、その後に何が起きたかを学ぶ。

五旬節はユダヤ人の大きな祭りで収穫期にあたりました。遠くに住んでいる人々も、エルサレムの都に集まってきました。イエスの復活後、弟子たちも五旬節の日にエルサレムに集まりましたが、驚くべきことが起こりました。私がここで話すよりも、あなたが次の聖句を読んで、一体何が起きたかを学んで下さい。



自習のために

1 次の質問の答えを探しながら、使徒2：1—5を読みなさい。

1) いつ起きたか。

2) 家の中で起きた二つの不思議なことは何だったのか。

3) 弟子たちに何が起きたのか。

2 人々の反応はどうだったか。(使徒2：13)。

3 ペテロは罪に対する贖い主としてのイエス・キリストについて語りましたが、人々が神との正しい関係に入るために

何をしなければならないと言いましたか（使徒2：38）。

4 初代の信者たちが何をしたのか、正しいと思うものを○で囲みなさい。

- 1) 彼らは使徒たちから学んだ。
- 2) 彼らは共に祈った。
- 3) 彼らは共に交わりを持った。
- 4) 彼らは互いに口論をした。
- 5) 彼らは共に食事をした。

答えを確認して下さい。

教会の誕生はすばらしいものでした。多くの回心者が起こされ（使徒2：41）、教会は日ごとに成長しました（47節）。しかし、問題もすぐ出てきはじめました。神の敵である悪魔は、たちまち敵対してきたのです。使徒の働きは、これらの苦難の記録をいくつか記しています（4：23、5：17—18）。

人々は信徒たちに関して偽りを言ったり、ある人々は福音のメッセージの一部をすり替えてしまいました。当時、ユダヤ人を支配していたローマ政府は、クリスチャンは群を好ましく思いませんでした。ですからクリスチャンは悪しき市民として訴えられ、初代の信者たちへの迫害は激しいものでした。ある者は拷問を受け、多くの人人は殺されましたが、真理の炎は消されることはありませんでした。

信者たちは、生まれ故郷を離れ、それぞれバルチア、メソポタミア、エジプト、リビア、そしてローマにまで逃げのびていきました。そして彼らは至る所で、神のなされたみ業について語り続け、散らされた所において新しい信者の群を結成していったのです。



自習のために

- 5** 地図を見て下さい。矢印は初代の信者たちがどのように散らされていったかを示しています。迫害を受けながら初代教会には何が起きたのでしょうか。

教会の公認

学びの目的2 教会がなぜ組織づくりを始めたか学んでみよう。

使徒の働きの大筋は、福音がどのように宣べ伝えられていったかを私たちに語り、パウロとペテロの宣教活動について述べています。新約聖書の書簡のほとんどは、パウロが新しく建てられた教会に宛てて書いたものです。ローマ帝国では、余りにも多くの人々がクリスチャンとなり、皇帝みずからもクリスチャンになるというほ

どの勢いで広がっていきました。コンスタンチヌス皇帝はキリスト教を公認しました（西暦303年）。多くの人々が教会に加わりましたが、そのほとんどは周囲の人々が加入するからという興味本意のもので、ある一部の人々は、神をも知らずに加わるというほどでした。彼らはまるでクラブに加入するような軽い気持ちで教会に入会しましたが、真のクリスチャンにはなりません。正しい教会とは、キリストを心に受け入れた者たちによって形成されますので、このような人々の加入によって教会内は混乱を生じました。

しかし、このような混乱の中にも真実なクリスチャンによって守られた教会は常に存在し、急速に成長していくのです。

教会の成長にともない、人々が互いに活動しやすくするために、教会を組織化する必要が生じました。やがて、やもめたちには援助が必要となり執事を選出しました（使徒6：1—4）。その他の必要も教会にはあります。邪悪で真理を教えない人々から教会を守るための必要、また、大きな教会が小さな教会を援助する必要などです。このように教会が団結してお互いの活動を円滑にしていくなかにも、教会は組織化されなければならなかったのです。



自習のために

6 次の文を読んで適切に完結する文を○で囲みなさい。

教会が組織化されるのは……………。

- 1) 皇帝がクリスチャンになったから。
- 2) 援助、保護、団結を円滑に進めるため。

3) 公認されるため。

教会の被害

学びの目的3 教会において起きた問題について説明する。

時がたつにつれ、クリスチャンの皇帝（支配者）たちは教会をも支配しようとして、教会を政治に巻き込みました。教会の指導者たちは監督と呼ばれていましたが、大きな都市で権力を争うようになり、教会の一部の人々は教会本来の目的を見失ってしまいました。


西暦500年頃、ローマ帝国は崩壊し、西暦1000年頃、東方の教会の信者と、西方の信者の間には何の交流もありませんでした。

やがて教会の内外に罪が生じてきたので、ある一部のクリスチャンたちは、この罪から離れるため既成の教会を離れました。彼らはこの世と肉的なクリスチャンから別離することにしたのです。そして修道院と呼ばれる特別な共同生活体に入ってしまった。修道院はたいがい、この世と離れるために、高い壁で囲まれていました。

クリスチャンにとって、修道院に入ることは良いことでしょうか。この問題は非常に難しいもので、修道院の生活には長所もありますが、反面、短所もあるのです。いくつかの修道院は学問の場でした。また、未開の地に最初に福音を伝えた修道院の人々もいます。西暦500年頃、彼らはヨーロッパに福音を伝え、イギリスには約700年頃、そしてスカンジナビア諸国には約1000年頃に福音を伝えているのです。



しかし、修道院にも問題が起きました。修道院の壁は厚く閉ざされていて、内部と外部との人々の間が断絶されているということです。このような断絶は、世の人々を助けることは不可能です。また修道院の人々は、他人の問題よりも、自分自身の魂にあまりにも関心を払ってしまい、そして多くの場合、罪の生じる結果ともなってしまうました。その厚い壁も罪を防ぐことはできませんでした。



自習のために

- 7** 教会になぜ問題が起きたのか。その的確な説明の答えを○で囲みなさい。
- 1) 教会があまりにも大きくなり過ぎたため。
 - 2) 人々が教会に行くのをやめたため。
 - 3) 教会は人々の魂の必要を満たすことを忘れてしまったため。

4) クリスチャンがこの世の人々との生活を願ったため。

教会の改革

学びの目的4 ルターによって回復された三つの聖書の教義を学ぶ。

時がたつにつれて、多くの間違いが教会内に起こりました。異教の儀式が聖霊の自由にとって代わり、異なる宗教が少し変えられて、あたかもそれがキリスト教であるかのように現われてきました。組織としての教会の会員制度が、霊的な生活よりも重要視されてきたのです。洗礼を受けた人々が、救われる以前からの異教の生活をしていても、クリスチャンと認められていました。良識ある人々が、聖書の真理に教会を戻そうとしても、受け入れられませんでした。神がリバイバルを起こされたのですが、しばしばその指導者たちは死刑にあたり、犠牲となりました。

教義の変化

西暦1500年代の初めに霊的变化が起こり始めました。それは修道僧の中の一人、マルチン・ルターによってでした。彼は神を求め見いだすために教会制度に従いました。この世から離れ、断食し、自分の肉体を打ちたたき苦業を行なっても、神を見いだすことはできませんでした。数年後、彼は聖書を学び始め、そしてその中に答えを見いだしたのです。「義人は信仰によって生きる」(ローマ1:17)。信仰によってマルチン・ルターは、神と正しい関係に入り、彼に従った人々はプロテスタント教徒と呼ばれるようになりました。

彼らの教義は次のようなもので、「聖書だけによる」「信仰だけによる」「神の恵みだけによる」というものです。「聖書だけによる」とは教会の慣習ではなく、聖書のみがクリスチャンの基本となるということで、「信仰だけによる」とは、人は信仰によってのみ神との正しい関係に入ること、どんな善行も、苦行も神の恩恵を得ることはできないということ、そして「恵みだけによる」とは、キリストが十字架で死なれたのは、神の一方的な恵みによるものであること、それによって神との関係を得るという信条でした。神は神を信じる者に、この恵みを惜しみなく与えて下さるのです。



自習のために

8 なぜリバイバルは必要だったのでしょうか。

9 マルチン・ルターによって回復された聖書の教義を述べよ。

- 1) _____
- 2) _____
- 3) _____

組織の変化

学びの目的5 教会組織のいくつかを学ぶ。

ルターは、教義上、聖書の教えに戻るよう努力しましたが、実際の面でも聖書の教えに忠実に従うよう指示しました。異教の習慣や儀式は除かれ、偶像は教会から取り去られました。修道院の男女は世の中で働くために派遣され、プロテスタント教徒（新教徒）は、聖書に根拠のない事柄は一切拒否しました。西側の教会（ローマ・カトリック）の指導者はこの運動に反対しましたが、ルターは、「私たちは人に従うより、神に従わなければならない」と言って受け入れませんでした。

やがて、プロテスタント教徒の中にも、その働きの組織化の必要を感じてきました。各国それぞれの習慣、物の考え方の違いにより種々な型の組織、団体が生まれました。一部の信者たちは、彼らがかつて行なっていたような組織づくりを願いました。それは、中心的な指導者を立て、その者が地域のリーダーに指示し、そしてまたその他の人々に命令を与えるという方式です。この種の組織は強力な中央集権体制を特徴とします。

カルビンがプロテスタント教徒を指導していたスイスでは、違った形式の組織づくりが発展しました。スイスには古くから、市民が指導者を選ぶという強い伝統がありました。カルビンの教会の組織化も、教会の人々がまず指導者を選び、そして各指導者が地域や全国の指導者を選ぶという方式でした。このような組織は地方分権主義を特徴としており、地域、地方の指導者に権力がありました。

ヨーロッパの他の国々では、また異なった形式の組織化が進み、これらの国々の信者たちは、地方及び地域以上の指導・権力を願わ

ず、全国的な指導者も、また王権との関わりも望みませんでした。この種の組織は、個々の教会に権力のあるのが特徴です。

これらの形式を持った、それぞれの組織、団体は聖書にその根拠を求め、それぞれに見いだしていったのです。

しかし、新約聖書には、教会がどのような形式の組織を持つべきかは明確には記されていません。その群の必要を満たすことが組織化の目的です。ある信者が、自分は霊的なので特定な形式の組織をつくりたい、と願うのは間違っています。これはコリントの教会ですでに起きていました（Iコリント1：12）。コリントの教会の信者たちは、教会の組織化で最も大切なことは、調和と愛であることを学びました。



自習のために

10 次の文を読み、正しいと思う文を○で囲みなさい。

- 1) 成長する教会は組織を必要とする。
- 2) 種々な形式のよい組織がある。
- 3) 組織は人々の心要を満たすものである。
- 4) 調和と愛が組織の形式より重要である。

11 新約聖書はある特定の教会組織、統治を教えているか。

あなたの住んでいる地域に対し、教会はどのような体制をとっているかを調べてみて下さい。地域のニーズにこたえようと、仕えているでしょうか。あなたの教会の働きを助けて下さい。

教会のリバイバル

マルチン・ルターによる宗教改革の時から、リバイバルが教会に臨みました。神はリバイバルを通して、まだ教えられていなかった聖書の真理を教えられました。それらすべてのリバイバルについて記すスペースがありませんので、二つだけを選んで、学んでみましょう。

福音主義運動

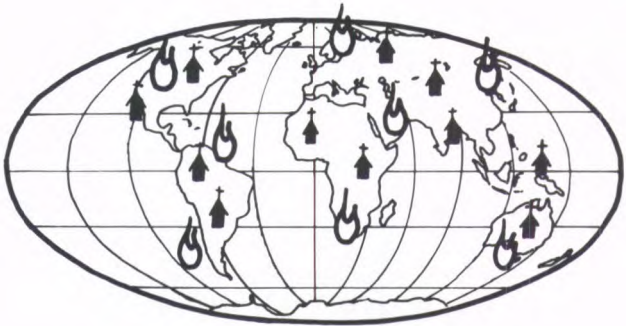
学びの目的6 リバイバルがなぜ必要とされるかを学ぶ。

教会に多くの問題があり、道徳的にも非常に低迷していた時、神は一人の器を起こされました。その人物は、ジョン・ウェスレーです。当時のイギリスでは、ほとんどの人々がクリスチャンであると自称し、教会の会員権を持っていましたが、本当のクリスチャンではありませんでした。ウェスレーは、このような人々が真実に神にお会いするという体験を持つべきであると説教し、建物のない所では野外において集会を開き、社会のあらゆる階級の人々に福音を伝えました。そして彼はイギリス全土を馬に乗って巡回し、説教以外の福音伝道でも積極的に行動しました。文筆活動、教育事業、社会事業にも携わり、イギリスに精神的・霊的な変革をもたらし、犯罪は減少し、一部の地域では飲酒問題も減り、家庭が保護され強化されました。



自習のために

12 なぜウェスレーの時代にリバイバルが必要だったか説明しなさい。



あなたの地域社会の霊的必要について考えてみて下さい。そしてあなたの教会はリバイバルを必要としていませんか。神がジョン・ウェスレーのようなクリスチャンを、あなたの地域に起こして下さいるように祈って下さい。

ペンテコステ運動

学びの目的7 ペンテコステ運動とは何かを学ぶ。

19世紀には福音を伝えるため教会は、多くの人を宣教師として新しい地域に派遣しました。アメリカ及びヨーロッパの宣教師たちは、アフリカ、アジア、その他の大陸に新しい教会を建設しました。

20世紀の初め、神は教会に聖霊を注がれ、世界中の多くの教会に聖霊の注ぎが同時に起こりました。五旬節のときに最初の弟子、使徒たちが経験したと同じ体験をしたのです。彼らは御霊の賜物と証しする力を授けられたのです。この聖霊の動き、運動はペンテコステ（五旬節）運動と呼ばれています。現在、この運動は世界中に広まり、1950年頃から、あらゆる教派の信者の集まりにおいて経験されるようになりました。私は、この聖霊の働きは教会をキリストの再臨に備えるための助けとして与えられている、と信じています。



自習のために

13 ペンテコステ運動とはどのような霊的体験のものですか。

答えを確認して下さい。

この簡単な教会の歴史が、みなさんの学びに役立つことを祈っております。教会の歴史は、時には悲しいものですし、神に栄光を帰さないこともありました。私たちはそのような過去から学び、再び同じ間違いを犯さないように努力しなければなりません。また私たちは、他の教派や、集まりに対しても理解を示さなければなりません。組織は違っても、私たちは共にキリストに属しているからです。

単に教会の歴史からでなく、聖書からクリスチャンにとっての正しい導びきを学ぶことができます。次の課では、教会に関して聖書には何と書かれているかを学びます。この学びを始める前に、私たちが、自分の地域社会において神が用いて下さるよう祈りましょう。



正 解

- 13 聖霊によって満たされること。
- 1) 五旬節の日
 - 2) 激しい風が吹いてくる響き、炎のような分かれた舌
 - 3) 聖霊に満たされ、他国の言葉で話した。
- 12 教会には会員はいたが真のクリスチャンは少なく、道徳も低かった。
- 2 ある人々は使徒たちをあざけた。
- 11 否、聖書は異なった形式の組織、統治を認めている。
- 3 罪を悔い改め、バプテスマを受ける。
- 10 全文ともに正解。
- 4) 1) 彼らは使徒たちから学んだ。
 - 2) 彼らは共に祈った。
 - 3) 彼らは共に交わりを持った。
 - 4) 彼らは共に食事をした。
- 9 信仰だけによる。聖書だけによる。恵みだけによる。
- 5 成長した。
- 8 教義と行ないに多くの間違いがあったため。
- 6) 2) 援助、保護、団結を円滑に進めるため。
 - 7) 3) 教会は人々の魂の必要を満たすことを忘れてしまったため。